

歴史と文化 (History and Culture)

考古学概論 I (Outline of Archeology I)

中村 豊・准教授 / 埋蔵文化財調査室

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『考古学』)

【授業の目的】 考古学は人類の遺した物質から歴史を復原する学問である。物質は文字資料とは異なって、そのままでは黙して語らない。この「沈黙の史料」からいかにして歴史を復原するのか、この点を理解することを第 1 の目的とし、次いで、その実践としての研究のあゆみを概観する。より興味を深めるために、その実践例として、「縄文から弥生へ」「邪馬台国の時代」「徳島の考古学」について講義し、大学構内遺跡の発掘についてもかいまみる。

【授業の概要】 考古学とは何か、なぜ考古学を学ぶのか。まずはじめに考古学の方法論を概説し、現代社会とのかかわりのなかで、考古学に取り組む意味・姿勢について考える。次に、文字のない時代における年代の決定方法や、食生活の復原方法、自然環境とのかかわりなど、関連諸科学との境界領域について講義する。以上をふまえた上で、日本考古学が、その成立から今日にいたるまで、どのように発展してきたのかを講義する。日本考古学の問題意識や理論が、時代背景とどのように関わってきたのか、これからどうあるべきかについて考察したい。なお、理解度を高めるために、パワーポイント等映像を適宜用いる予定である。

【キーワード】 日本考古学、方法論、考古学史、歴史意識、関連諸科学

【関連科目】 『歴史と文化/東アジア考古学概論 I』(0.5)、 『歴史と文化/東アジア考古学概論 II』(0.5)

【到達目標】

1. 考古学の方法を理解する。
2. 考古学と関連諸科学との関わりを理解する。
3. 日本考古学のあゆみと、その背後にある時代背景との関わりを理解する。

【授業の計画】

1. 考古学の方法 1 考古学とは何か、なぜ考古学を学ぶのか
2. 考古学の方法 2 型式学と層位学
3. 考古学と関連諸科学 1 年代決定法 1
4. 考古学と関連諸科学 2 年代決定法 2
5. 考古学と関連書科学 2 自然環境と人間のかかわり
6. 日本考古学のあゆみ 1 近代考古学の成立と展開
7. 日本考古学のあゆみ 2 編年学派の登場

8. 日本考古学のあゆみ 3 戦中・戦後の考古学

9. 日本考古学のあゆみ 4 高度経済成長、東西冷戦の終結とこれからの考古学

10. 日本考古学の実践例 1 縄文から弥生へ

11. 日本考古学の実践例 2 邪馬台国の時代

12. 徳島の遺跡

13. 青石の考古学

14. 徳島大学構内遺跡と考古学

15. レポート提出

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、学期末のレポートにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 考古学に興味のある学生は、学部・専攻・文系理系を問わず歓迎します。なお、平成 19 年度前期に開講した授業題目『日本考古学概論』を受講したものは履修できません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220709>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 8 時 30 分 ~ 17 時 30 分)